

【表紙】

【提出書類】	半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の5第1項の表の第1号
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	2025年11月13日
【中間会計期間】	第95期中（自 2025年4月1日 至 2025年9月30日）
【会社名】	株式会社銭高組
【英訳名】	THE ZENITAKA CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 銭高 久善
【本店の所在の場所】	大阪市西区西本町二丁目2番4号
【電話番号】	06(6531)6431（代表）
【事務連絡者氏名】	執行役員 総合支援本部財務部長 藤本 正仁
【最寄りの連絡場所】	大阪市西区西本町二丁目2番4号
【電話番号】	06(6531)6431（代表）
【事務連絡者氏名】	執行役員 総合支援本部財務部長 藤本 正仁
【縦覧に供する場所】	株式会社銭高組 東京支社 （東京都千代田区一番町31番地） 株式会社銭高組 名古屋支店 （名古屋市中区丸の内一丁目9番16号） 株式会社銭高組 九州支店 （福岡市博多区祇園町2番1号） 株式会社銭高組 北関東支店 （さいたま市浦和区常盤一丁目2番21号） 株式会社銭高組 千葉支店 （千葉市中央区中央三丁目9番16号） 株式会社銭高組 横浜支店 （横浜市中区扇町三丁目8番8号） 株式会社銭高組 神戸支店 （神戸市中央区北長狭通四丁目9番26号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 株式会社名古屋証券取引所 （名古屋市中区栄三丁目8番20号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第94期 中間連結会計期間	第95期 中間連結会計期間	第94期
会計期間	自2024年4月1日 至2024年9月30日	自2025年4月1日 至2025年9月30日	自2024年4月1日 至2025年3月31日
売上高 (百万円)	52,475	63,382	120,660
経常利益 (百万円)	1,840	3,762	5,098
親会社株主に帰属する中間 (当期)純利益 (百万円)	1,627	2,221	3,504
中間包括利益又は包括利益 (百万円)	193	7,971	4,654
純資産額 (百万円)	92,019	103,978	96,867
総資産額 (百万円)	189,076	208,075	206,761
1株当たり中間(当期)純利益 (円)	227.21	310.20	489.39
潜在株式調整後1株当たり中間(当 期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	48.7	50.0	46.8
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	17,868	5,255	7,727
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	842	887	26
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	768	3,085	2,657
現金及び現金同等物の中間期末(期 末)残高 (百万円)	35,520	9,301	12,538

(注) 1. 当社は中間連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり中間(当期)純利益については、潜在株式がないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当中間連結会計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社に異動はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当中間連結会計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当中間連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当中間連結会計期間の世界経済は、米国の通商政策の影響による不確実性が継続しており、今後の影響を注視していく必要があります。わが国経済においては、物価上昇の継続による個人消費への影響はあるものの、企業収益は着実に改善し、緩やかな回復基調を継続しております。

建設市場におきましては、民間設備投資は堅調に推移しているものの、資材価格や労務費等の高騰が長期化しており、依然として厳しい経営環境が続く見通しであります。

このような状況のもと、当中間連結会計期間の業績は次のとおりとなりました。

財政状態の分析

当中間連結会計期間末における資産の部は、前連結会計年度末比1,314百万円増（0.6%増）の208,075百万円となりました。その内訳としましては、流動資産は、前連結会計年度末比7,591百万円減（6.7%減）の104,894百万円、固定資産は、前連結会計年度末比8,905百万円増（9.4%増）の103,180百万円となりました。

負債の部は、前連結会計年度末比5,797百万円減（5.3%減）の104,096百万円となりました。その内訳としましては、流動負債は、前連結会計年度末比8,491百万円減（11.4%減）の66,071百万円、固定負債は、前連結会計年度末比2,694百万円増（7.6%増）の38,025百万円となりました。

純資産の部は、前連結会計年度末比7,111百万円増（7.3%増）の103,978百万円となりました。

経営成績の分析

売上高につきましては、建設事業62,057百万円に不動産事業1,324百万円を加えた63,382百万円（前年同期比20.8%増）となりました。利益面につきましては、営業利益は2,981百万円（前年同期比147.8%増）、経常利益は3,762百万円（前年同期比104.5%増）、親会社株主に帰属する中間純利益は2,221百万円（前年同期比36.5%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりとなりました。

（建設事業）

受注工事高は、建築工事33,029百万円（前年同期比44.5%増）、土木工事7,204百万円（前年同期比24.8%増）の合計40,233百万円（前年同期比40.5%増）となり、完成工事高は、建築工事43,743百万円（前年同期比25.5%増）、土木工事18,313百万円（前年同期比11.6%増）の合計62,057百万円（前年同期比21.1%増）、営業利益は2,705百万円（前年同期比181.1%増）となりました。

（不動産事業）

売上高は1,324百万円（前年同期比8.8%増）、営業利益は802百万円（前年同期比6.5%増）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間における現金及び現金同等物の残高は、9,301百万円（前年同期は35,520百万円）となりました。その内訳としましては、営業活動によるキャッシュ・フローは、5,255百万円の支出超過（前年同期は17,868百万円の収入超過）、投資活動によるキャッシュ・フローは、887百万円の支出超過（前年同期は842百万円の収入超過）、財務活動によるキャッシュ・フローは、3,085百万円の収入超過（前年同期は768百万円の支出超過）となりました。

(3) 研究開発活動

当中間連結会計期間における研究開発費は100百万円となりました。

3【重要な契約等】

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	19,000,000
計	19,000,000

【発行済株式】

種類	中間会計期間末現在 発行数(株) (2025年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2025年11月13日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	7,353,140	7,353,140	東京証券取引所スタンダード市場 名古屋証券取引所メイン市場	単元株式数 100株
計	7,353,140	7,353,140	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2025年4月1日～ 2025年9月30日	-	7,353,140	-	3,695	-	522

(5) 【大株主の状況】

2025年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
泉株式会社	兵庫県西宮市南郷町102番地	2,539	35.46
大泉商事株式会社	大阪市西区西本町二丁目2番4号	931	13.01
株式会社三菱UFJ銀行	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号	357	4.99
株式会社SBI証券	東京都港区六本木一丁目6番1号	232	3.25
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内一丁目1番2号	200	2.79
高德会	大阪府高石市千代田五丁目2番32号	165	2.30
株式会社FUJI	愛知県知立市山町茶碓山19番地	149	2.08
BNYMSANV RE BNYMIL RE WS ZENNOR JAPAN EQUITY INCOME FUND(常任代理人 株式会社 三菱UFJ銀行)	3RD FLOOR, CENTRAL SQUARE, 29 WELLINGTON STREET, LEEDS, LS14DL, UNITED KINGDOM(千代田区丸の内一丁目 4番5号)	126	1.77
泉エンジニアリング株式会社	東京都千代田区一番町9番地	118	1.65
三菱UFJ信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号	100	1.40
計	-	4,920	68.70

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2025年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 191,500	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 7,148,900	71,489	-
単元未満株式	普通株式 12,740	-	-
発行済株式総数	7,353,140	-	-
総株主の議決権	-	71,489	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が100株含まれております。また、
「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権に係る議決権の数1個が含まれております。

【自己株式等】

2025年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合(%)
株式会社銭高組	大阪市西区西本町 二丁目2番4号	191,500	-	191,500	2.60
計	-	191,500	-	191,500	2.60

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．中間連結財務諸表の作成方法について

当社の中間連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号。以下、「連結財務諸表規則」という。）に準拠して作成し、「建設業法施行規則」（昭和24年建設省令第14号）に準じて記載しております。

また、当社は、金融商品取引法第24条の5第1項の表の第1号の上欄に掲げる会社に該当し、連結財務諸表規則第1編及び第3編の規定により第1種中間連結財務諸表を作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、中間連結会計期間（2025年4月1日から2025年9月30日まで）に係る中間連結財務諸表について、東陽監査法人による期中レビューを受けております。

1 【中間連結財務諸表】

(1) 【中間連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年 3 月31日)	当中間連結会計期間 (2025年 9 月30日)
資産の部		
流動資産		
現金預金	12,538	9,301
受取手形・完成工事未収入金等	95,766	89,598
未成工事支出金	471	680
販売用不動産	0	0
その他	3,709	5,313
貸倒引当金	0	0
流動資産合計	112,486	104,894
固定資産		
有形固定資産		
土地	20,459	20,461
その他（純額）	4,400	4,888
有形固定資産合計	24,860	25,350
無形固定資産	189	133
投資その他の資産		
投資有価証券	68,058	76,552
その他	2,025	2,002
貸倒引当金	859	859
投資その他の資産合計	69,225	77,695
固定資産合計	94,274	103,180
資産合計	206,761	208,075

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年 3 月31日)	当中間連結会計期間 (2025年 9 月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	22,917	17,660
電子記録債務	10,115	7,770
短期借入金	22,050	26,050
1年内返済予定の長期借入金	100	100
未払法人税等	1,002	1,195
未成工事受入金	15,820	10,839
完成工事補償引当金	89	95
賞与引当金	842	830
工事損失引当金	587	523
その他	1,036	1,005
流動負債合計	74,562	66,071
固定負債		
長期借入金	14,700	14,650
繰延税金負債	15,468	18,060
役員退職慰労引当金	305	311
退職給付に係る負債	2,375	2,416
その他	2,482	2,586
固定負債合計	35,330	38,025
負債合計	109,893	104,096
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,695	3,695
資本剰余金	522	522
利益剰余金	57,216	58,578
自己株式	518	519
株主資本合計	60,916	62,277
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	35,485	41,379
為替換算調整勘定	465	321
その他の包括利益累計額合計	35,951	41,701
純資産合計	96,867	103,978
負債純資産合計	206,761	208,075

(2) 【中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書】

【中間連結損益計算書】

(単位 : 百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年 4 月 1 日 至 2024年 9 月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年 4 月 1 日 至 2025年 9 月30日)
売上高		
完成工事高	51,257	62,057
不動産事業等売上高	1,217	1,324
売上高合計	52,475	63,382
売上原価		
完成工事原価	47,645	56,314
不動産事業等売上原価	416	469
売上原価合計	48,062	56,783
売上総利益		
完成工事総利益	3,611	5,743
不動産事業等総利益	800	855
売上総利益合計	4,412	6,598
販売費及び一般管理費	1 3,209	1 3,617
営業利益	1,203	2,981
営業外収益		
受取利息	48	53
受取配当金	799	999
その他	64	23
営業外収益合計	912	1,076
営業外費用		
支払利息	132	188
為替差損	139	43
その他	4	63
営業外費用合計	275	295
経常利益	1,840	3,762
特別利益		
固定資産売却益	692	-
投資有価証券売却益	-	10
特別利益合計	692	10
特別損失		
固定資産除却損	17	220
特別損失合計	17	220
税金等調整前中間純利益	2,515	3,551
法人税、住民税及び事業税	794	1,351
法人税等調整額	93	20
法人税等合計	888	1,330
中間純利益	1,627	2,221
非支配株主に帰属する中間純利益	-	-
親会社株主に帰属する中間純利益	1,627	2,221

【中間連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
中間純利益	1,627	2,221
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,026	5,894
為替換算調整勘定	205	143
その他の包括利益合計	1,820	5,750
中間包括利益	193	7,971
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	193	7,971
非支配株主に係る中間包括利益	-	-

(3) 【中間連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年 4 月 1 日 至 2024年 9 月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年 4 月 1 日 至 2025年 9 月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	2,515	3,551
減価償却費	258	299
貸倒引当金の増減額 (は減少)	0	0
工事損失引当金の増減額 (は減少)	501	63
退職給付に係る負債の増減額 (は減少)	2	41
受取利息及び受取配当金	847	1,053
支払利息	132	188
投資有価証券売却損益 (は益)	-	10
有形固定資産売却損益 (は益)	692	-
売上債権の増減額 (は増加)	23,371	6,168
未成工事支出金の増減額 (は増加)	259	209
販売用不動産の増減額 (は増加)	0	-
仕入債務の増減額 (は減少)	14,547	7,602
未成工事受入金の増減額 (は減少)	208	4,980
その他	8,135	1,288
小計	17,877	4,958
利息及び配当金の受取額	843	1,051
利息の支払額	135	189
法人税等の支払額	717	1,158
法人税等の還付額	0	0
営業活動によるキャッシュ・フロー	17,868	5,255
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	70	698
有形固定資産の売却による収入	963	-
無形固定資産の取得による支出	8	7
投資有価証券の取得による支出	37	11
投資有価証券の売却による収入	-	37
貸付金の回収による収入	51	0
その他	56	208
投資活動によるキャッシュ・フロー	842	887
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (は減少)	-	4,000
長期借入金の返済による支出	50	50
自己株式の取得による支出	-	0
配当金の支払額	704	849
その他	13	14
財務活動によるキャッシュ・フロー	768	3,085
現金及び現金同等物に係る換算差額	86	178
現金及び現金同等物の増減額 (は減少)	18,029	3,236
現金及び現金同等物の期首残高	17,490	12,538
現金及び現金同等物の中間期末残高	1 35,520	1 9,301

【注記事項】

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(中間連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前中間連結会計期間 (自 2024年 4 月 1 日 至 2024年 9 月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年 4 月 1 日 至 2025年 9 月30日)
従業員給料手当	1,130百万円	1,213百万円
賞与引当金繰入額	304	317
退職給付費用	46	50

(中間連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の中間期末残高と中間連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前中間連結会計期間 (自 2024年 4 月 1 日 至 2024年 9 月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年 4 月 1 日 至 2025年 9 月30日)
現金預金勘定	35,520百万円	9,301百万円
現金及び現金同等物	35,520	9,301

(株主資本等関係)

前中間連結会計期間 (自 2024年 4 月 1 日 至 2024年 9 月30日)

配当金支払額

(決 議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1 株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2024年 6 月26日 定時株主総会	普通株式	716	100.0	2024年 3 月31日	2024年 6 月27日	利益剰余金

当中間連結会計期間 (自 2025年 4 月 1 日 至 2025年 9 月30日)

配当金支払額

(決 議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1 株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2025年 6 月26日 定時株主総会	普通株式	859	120.0	2025年 3 月31日	2025年 6 月27日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前中間連結会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	建設事業	不動産事業	合計	調整額 (注)1	中間連結 損益計算書 計上額 (注)2
売上高					
外部顧客への売上高	51,257	1,217	52,475	-	52,475
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-
計	51,257	1,217	52,475	-	52,475
セグメント利益	962	753	1,716	512	1,203

(注)1.セグメント利益の調整額 512百万円は、主に提出会社本社の管理部門に係る費用であります。

2.セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当中間連結会計期間(自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	建設事業	不動産事業	合計	調整額 (注)1	中間連結 損益計算書 計上額 (注)2
売上高					
外部顧客への売上高	62,057	1,324	63,382	-	63,382
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-
計	62,057	1,324	63,382	-	63,382
セグメント利益	2,705	802	3,508	526	2,981

(注)1.セグメント利益の調整額 526百万円は、主に提出会社本社の管理部門に係る費用であります。

2.セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前中間連結会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計
	建設事業	不動産事業	
一時点で移転される財	1,689	-	1,689
一定の期間にわたり移転される財	49,567	-	49,567
顧客との契約から生じる収益	51,257	-	51,257
その他の収益	-	1,217	1,217
外部顧客への売上高	51,257	1,217	52,475

当中間連結会計期間(自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計
	建設事業	不動産事業	
一時点で移転される財	1,696	-	1,696
一定の期間にわたり移転される財	60,360	-	60,360
顧客との契約から生じる収益	62,057	-	62,057
その他の収益	-	1,324	1,324
外部顧客への売上高	62,057	1,324	63,382

(1株当たり情報)

1株当たり中間純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
1株当たり中間純利益(円)	227.21	310.20
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する中間純利益(百万円)	1,627	2,221
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 中間純利益(百万円)	1,627	2,221
普通株式の期中平均株式数(千株)	7,161	7,161

(注)潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、潜在株式がないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の中間連結財務諸表に対する期中レビュー報告書

2025年11月10日

株式会社銭高組

取締役会 御中

東陽監査法人
大阪事務所

指定社員
業務執行社員 公認会計士 桐山 武志

指定社員
業務執行社員 公認会計士 川越 宗一

指定社員
業務執行社員 公認会計士 玉田 優樹

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社銭高組の2025年4月1日から2026年3月31日までの連結会計年度の中間連結会計期間（2025年4月1日から2025年9月30日まで）に係る中間連結財務諸表、すなわち、中間連結貸借対照表、中間連結損益計算書、中間連結包括利益計算書、中間連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について期中レビューを行った。

当監査法人が実施した期中レビューにおいて、上記の中間連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社銭高組及び連結子会社の2025年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する中間連結会計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に準拠して期中レビューを行った。期中レビューの基準における当監査法人の責任は、「中間連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定（社会的影響度の高い事業体の財務諸表監査に適用される規定を含む。）に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

中間連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して中間連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

中間連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した期中レビューに基づいて、期中レビュー報告書において独立の立場から中間連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に従って、期中レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の期中レビュー手続を実施する。期中レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、中間連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。

また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、期中レビュー報告書において中間連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、期中レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 中間連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 中間連結財務諸表に対する結論表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、中間連結財務諸表の期中レビューに関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した期中レビューの範囲とその実施時期、期中レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記の期中レビュー報告書の原本は当社(半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. X B R L データは期中レビューの対象には含まれておりません。